

おらほの ふるさとから

MAP 105 A-3, B-3

世界遺産に登録され、一躍注目を集める富岡製糸場。場内の様子は、あまたの情報が溢れているので、今回の旅では割愛させていただきます、場内見学を終えたところからレポートをスタートしよう。

●本社 広報 田村岳行（甘楽町出身）



赤煉瓦作りが印象的な旧富岡製糸場東繭倉庫。その煉瓦や礎石も「おらほの町」産だ



創業から100年以上の伝統を守り続ける3代目店主。種類は中辛、大辛に加え土日限定で特辛も



銀座まちなか交流館で出会った元工女の野尻照子さん

まず製糸場の正門を左に出て、路地の角にある銀座まちなか交流館に入った。銀座の名を冠すとおり、かつては映画館やら飲食店が軒を連ね、工女さんや近からの買い物客で賑わったというが、他の地方都市と同様、その面影が乏しいのは残念な限りだ。

この交流館は、歩き疲れた体を癒すには嬉しい無料休憩所を兼ねているのだが、運が良ければ富岡製糸場の元工女さんの話が聞けるスポットでもある。私が訪ねた日には、御年88歳という元工女・野尻照子さんが居た。地元で「のめっこい」というスベスベ肌は、とても米寿には見えない。戦前から戦後に掛けて製糸場で働いていたそうで、「若い娘ばつかで、それは楽しかった」と懐かしそうだ。

そんな思い出話に登場したのが、斜向かいの富士屋さん。かつては、工女さんたちがお昼時だけでなく、「おこじはん（間食）」にも出前を取ったり、休日には映画と富士屋さんの甘味が何よりの楽しみだったというお店だ。昭和を色濃く感じる富士屋さんだが、すべて手作りというあざきアイスや甘味は今も人気だ。

富岡製糸場の周辺には、ほかにいろいろなお店があるが、ぜひ立ち寄りたいのが、1896（明治29）年創業の吉田七味店。絶妙な調合で、辛さだけでなく深みある香りが上州人のソウルフード



群馬県内唯一の大名庭園。復元された陣屋跡とともに往時を偲ばせる



まゆ菓優 田島屋さんの、まゆくわ最中は、絹産業の遺構を訪ねる旅のお土産には最適。地元でドドメと呼ぶ桑の実、そして桑の葉を練り込んだ餡は、甘さ控えめで秀逸。マルベリーなどと気取らずとも、ドドメで十分だ

「おつきりこみ」などの麺料理はもちろんのこと、汁物や漬物の葉味・吸口にも最高の逸品だ。

さて、富岡製糸場の周辺の散策を終えた後は、東隣の甘楽町小幡（かづらまちはた）に向かった。ちよつと難解で不思議な町名だが、一説には渡来人が多く帰化した土地で『韓』が転じたとも言われ、続日本紀にも甘良の文字が見えるという。豊かな緑と澄んだ空気が、清らかな水が猥雑な日常を忘れさせてくれる癒しのスポットでもある。

そんな甘楽町で、まず訪ねたのが国指定名勝楽山園（らくざんえん）だ。これまた不思議に思われるかもしれないが、甘楽町は江戸時代に織田宗家が8代にわたり治めた地。信



明治・大正・昭和と続いた商家を改修した無料休憩所。流れる空気がどこか丸みを帯び、落ち着く空間だ

長の次男である信雄（のぶお）が築庭したのが大名庭園の楽山園だ。昆明池を中心にした池泉回遊式庭園は、背後の山々を借景に四季折々の景観が素晴らしい。園内の凌霄亭で抹茶を喫しつつ、水音や野鳥のさえずりを耳にすると、つい「余は満足じゃ」などと口走る自分に失笑してしまうかも。

一服の茶を愉しんだ後は、武家屋敷を抜け、雄川堰に向かった。途中、甘楽町歴史民俗資料館にちよつと寄り道。レンガ造りの建物は、元は養蚕のための繭倉庫だったそうだが、現在は甲冑など織田家関連の展示のほか、繭から糸を紡ぐ座（ざ）織り器など、富岡製糸場では見られない小規模な製糸に関する展示が興味を引く。



農耕信仰の山・稻倉を源とする雄川から引く用水。堰に沿って植えられた桜は江戸初期から人々の目を楽しませる

資料館を出て、道路を挟んだ反対側にあるのがお目当ての雄川堰。清冽で豊富な水は、藩政時代から生活・灌漑用水として利用され、日本名水百選の一つにも数えられる。堰の途中にある無料休憩所「信州屋」で接待してくれた地元の女性によれば、「堰に沿って植えられた桜が咲く頃が最高に美しい」というが、強い日差しを木漏れ日に変え、清らかな流れとともに涼を演出する夏場も、それはそれで良である。二階の板敷に佇めば、まるで親戚の家にも来たような気安さを感じ、時の移ろいさえ忘れてしまう。

そして、旅の締め括りは、観光バスやマイカーが引つ切り無しに出入りする、こんなにやくパークへ。上州名物のこんにやくの博物館だ。ここ、製造工程の見学は当然として、フルーツゼリーやオリジナルこんにやく作りの体験もできる。そして何と言ってもお目当ては、こんにやくバイキング。定番からカレーやレバ刺風といった珍品まで、常時10数種の料理が無料で試食できるので。お土産も充実しているので、ぜひとも一見あれ。

満腹となったところで、今回の旅はこれで完。道の駅「甘楽」で、日本ではここにしかない姉妹都市チエルトルド市産のイタリアワインでも買い込んで、家でゆっくり上州路の思い出を振り返りましょうか。